

機関名	評価結果	所見
国立大学法人東京大学	A	<p>工学系研究科の複数専攻に展開された取組であり、採択時コメントに従って初年度から企業実習を開始するなど計画は順調に推移している。また、本事業で開発した演習等を、特定の専攻としてではなく工学系研究科の講義として事業終了後も継続しようとしている点は評価できる。</p> <p>今後は、工学系研究科の他専攻のみならず、他研究科へも展開して取組をさらに発展させることを期待する。</p>
国立大学法人東京農工大学	S	<p>作成した演習モデルは、多数の参加人数が見込め、全学への展開が期待できる仕組みとなっている。特に事前学習は上手く機能しており、中でも「学びの目標設定」という演習モデルに参加する学生の動機付けの手法は高く評価できる。</p> <p>今後は、企業実習を受け入れた企業からの評価の演習モデルへの一層の反映など、PDCAサイクルにおける企業の関与を強めるとともに、演習モデルや講義の単位化等のシステム化を進めることを期待する。また、農学部のみならず工学部への展開を一層推進することを期待する。</p>
公立大学法人大阪府立大学	S	<p>これまで、学長の強いリーダーシップのもとに進められている取組であるが、PDCAサイクルを効率的にまわしており、当初は事務局のみで行っていた企業実習のテーマの設定に、企業や学生も関与させるようにするなど、地域の特徴を活かした演習モデルを築きあげている優れた取組である。加えて、参加者を選抜する際に、特にリーダーとしての素質を重視して面接等を行っている点も高く評価できる。</p> <p>今後はさらに組織的に取組を推進できるよう、成果のモデル化、抽象化を進めていくことを期待する。</p>
学校法人早稲田大学	A	<p>博士キャリアセンターを活用して企業を巻き込んだPDCAサイクルの展開や、シラバスの作成が評価できる。応募総数、採用者数ともに開始年度は少なかったものの、2年度目以降は増加傾向にあるとともに、多様な学生が参加しており、異分野融合の試みはほぼ順調に進んでいると言える。</p> <p>今後は、取組の一層の進展のために、以下のことを検討してもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1つの課題に複数のチームで取り組む方式</li> <li>・演習テーマの設定への学生の参画</li> </ul> <p>なお、開始2年間でプログラム企画評価委員会が一回しか開催されておらず、開催回数を増やすなど評価プロセスを強化することが望まれる。</p>